

SARSとインフルエンザの違い

	SARS	インフルエンザ
原因病原体	SARS コロナウイルス	インフルエンザ ウイルス (A,B,C)
感染様式	飛沫、空気感染、 手指、糞便	飛沫、空気感染
潜伏期	10日以内	5日以内
症状	高熱、咳、息切れ、 呼吸困難、下痢	高熱、咳、鼻汁、 筋肉節痛
診断方法	血清学的検査 (数日要す)	迅速診断キット(数分) 血清学的検査
予防	うがい、手洗い、 マスクなど	うがい、手洗い、 マスクなど
ワクチン	なし	あり
治療	対症療法	抗インフルエンザ薬 あり
予後	致命率高い(約11%)	重症化することもあり

れます。また、頭痛、悪寒戦慄、食欲不振、全身倦怠感、下痢、意識混濁などの症状が見られることもあり。致死率も全体で約11%と他の感染症と比べかなり高いです。診断は流行地への過去10日以内の渡航歴があり、これらの症状を呈する場合に他の原因を除外し、最終的に血液検査でウイルス感染の証明がされれば確定診断ができます。しかし、確定検査に日数がかかることと精度の問題があり、今後新たな検査法が望まれます。治療に関しては今のところ特效薬は無いので発症したら、対

症療法で状態が改善するのを待つしかないのが現状です。  
現在(当原稿執筆時)までで日本では発生の報告は無く、世界的にも再び流行があるのではないかと予想されています。もし、国内で発生があれば、相当なパニックとなると考えられます。インフルエンザの流行時期に重なり、症状だけでは区別もつきにくいことからSARS疑い症例(インフルエンザ症例も含む)に、対応は必要以上に過敏になることでしょうか。混乱を防ぐために

新型肺炎をめぐる経過

2002年 11月	中国広東省で原因不明の肺炎が流行
2003年 4月2日	世界保健機関(WHO)が広東省と香港に渡航延期勧告
16日	WHO専門家チームが原因を新種のコロナウイルスと断定
20日	中国が感染者数を大幅上方修正
23日	WHOが北京、カナダ、トロントなどへの渡航延期勧告
24日	中国が感染防止の隔離・封鎖で強硬措置を通達
30日	トロントへの渡航延期勧告を解除
5月17日	関西を旅行した台湾人医師は新型肺炎患者と台湾当局が認定
22日	世界の感染者数が8,000人を突破
23日	広東省と香港への渡航延期勧告解除
6月15日	世界の死者計800人に
17日	台湾への渡航延期勧告解除
18日	WHOが事実上の「制圧宣言」
23日	香港の流行地域指定解除
24日	北京への渡航延期勧告、流行地域指定を解除
7月2日	トロントの流行地域指定を解除
5日	WHOが最後まで残っていた台湾の流行地域指定を解除 世界規模の「制圧宣言」

(共同)

も可能な限り当面はインフルエンザの予防、蔓延の阻止に努めましょう。  
**おわりに**  
インフルエンザもSARSも感染力が強く、症状も重症化することがある感染症です。特にSARSに関してはまだまだ不明な点が多く、検査、治療法が確立していません。日ごろより新聞、テレビなどの報道や自治体、医療機関の提供する情報に注意を払い、適切な対応をとるよう心がけてください。

主な国・地域の新型肺炎による感染者・死者数 (WHOまとめ)



	感染者数	死者数		感染者数	死者数
①中国	5327人	348人	⑥米国	73人	0人
②香港	1755人	298人	⑦ベトナム	63人	5人
③台湾	674人	84人	⑧フィリピン	14人	2人
④カナダ	251人	38人	⑨タイ	9人	2人
⑤シンガポール	206人	32人	⑩マレーシア	5人	2人

その他、南アフリカ死者1人

SARS肺炎の胸部レントゲン  
(両肺に広範に浸潤影あり)

